

海岸清掃を軸にした系統的活動で地域のアイデンティティー育む

環境大臣賞 新潟県 新潟市立真砂小学校

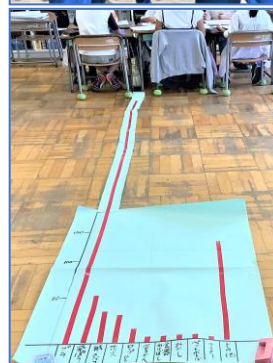
新潟市の西部に位置し、校舎から日本海や佐渡島を見晴らせる同校。その恵まれた環境を守るために全校で取り組むのが、小針浜海岸の清掃活動だ。今年で26年目を迎える伝統行事として知られる。校区は現在、高度経済成長期に開発された住宅地が広がるエリアだが、かつては砂丘地帯だった。人が住む町としての歴史が浅いため、代表的な地場産業や祭りといった、地域を象徴するものが育ちにくいという課題があった。そこで、学校が中心となり、児童が地域の良さを見つけ、その魅力を高めていくことで、地域のアイデンティティーを築こうと、2020年から開始したのが、「大好き新潟・見つけよう真砂の自然・守ろう自然環境」プロジェクト。

長年続く海岸清掃活動を単なる恒例行事で終わらせるのではなく、それを軸に、児童が地域や環境について課題を見つけ、問題意識を持って行動し、話し合いを通じて解決する能力を育む活動へと発展させた。主に4年生が、全校で行う海岸清掃の前に、浜辺を訪れごみ調査を実施。同時に、本や映像などで漂着ごみについて知識を深め、問題を自分事として考える。清掃当日は、ごみの回収係、集計係、写真記録係など担当を決めて、ごみ分別しながら活動。新潟海上保安部の協力を得て、指導や解説を聞いた後、児童は、回収ごみを種類別にグラフ化する。分析を通じ、プラスチックや海外からの漂着ごみの多さに驚いた児童は、小針浜をきれいにするための解決方法を話し合った。その結果、浜辺を利用する人へ発信しようと啓発ポスターを作成し、地域の病院や商業施設、海の家などにポスターの掲示を依頼。

児童を見守る住民の三國義則さんは、「大人が捨てたごみの後始末を子どもたちが行うのは残念なことです、子どもからの発信で、地域全体に美化の意識が広がっています」と効果を語る。

以前に比べ、海岸のごみは減少。普段からポイ捨てごみを気にかけるなど、児童の意識にも変化が見られるようになった。

“海と砂浜しかない”から、“自慢の美しい海と砂浜がある”へ。海岸清掃を機に、地域への誇りが着々と育まれている。



新潟県 新潟市立真砂（まさご）小学校

学校長：岡本 泰子（おかもと やすこ）

児童数：414名(2021年11月末現在)

住所：新潟県新潟市西区真砂3丁目24番1号

電話：025-267-1850

アクセス：JR「小針」駅からクルマで約10分

上：日本海越しに佐渡島をのぞむ小針浜の海岸
2番目左：砂浜に点在する漂着ごみを回収、右：
ごみを調査する様子、3番目左：グラフ化すると
プラスチックごみの多さを実感、右：地域や観
光客に向けて啓発ポスターを作成中、下：地域
の商店などにポスターの掲示を依頼をする